

**Citation:** Tan Y, Liu M, Wu B. Puerarin for acute ischaemic stroke. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2008, Issue 1. Art. No.: CD004955. DOI: 10.1002/14651858.CD004955.pub2.

**CRG名:** Stroke

### [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 24 September 2007

**Clib issue No.;** N/U: 2008 issue 1; New

**背景:** プエラリンは一種の漢方薬であり、中国では急性虚血性脳卒中の治療に広く使用されている。

**目的:** 急性虚血性脳卒中に対するプエラリンの有効性と安全性を評価する。

**検索戦略:** Cochrane Stroke Group Trials Register(最終検索2006年8月)、Trials Register of the Cochrane Complementary Medicine Field(最終検索2006年6月)およびChinese Stroke Trials Register(最終検索2006年6月)を検索した。さらにCochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)(コクラン・ライブラリ 2006年第1号)、MEDLINE(1966年~2006年8月)、EMBASE(1980年~2006年6月)、AMED(1985年~2006年6月)およびChina Biological Medicine Database(CBM-disc, 1979年~2006年6月)を検索した。さらに発表済および未発表の研究を同定するために、参考文献リスト、関連性のある臨床試験および研究登録を検索し、製薬企業および研究者に問い合わせた。

**選択基準:** 急性虚血性脳卒中の患者を対象にプエラリンとプラセボを比較しているランダム化比較試験または準ランダム化比較臨床試験、またはオープン対照試験(プラセボなし)。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが独自に選択基準を適用し、試験の質を評価し、データを抽出した。

**主な結果:** 参加者98名を対象とした1件の試験を含めた。治療群と対照群との間で死亡や依存に有意差は認められなかった(オッズ比(OR)0.81、95%信頼区間(CI)0.35~1.87)。重篤な有害作用の報告はなかった。

**レビューアの結論:** 急性虚血性脳卒中の患者の生存や依存に対するプエラリンの効果を評価するための十分なエビデンスはない。有効性を評価するためには、質の高い大規模なランダム化比較試験が必要である。

(監訳 島村治子)

翻訳公開日: 08年4月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。